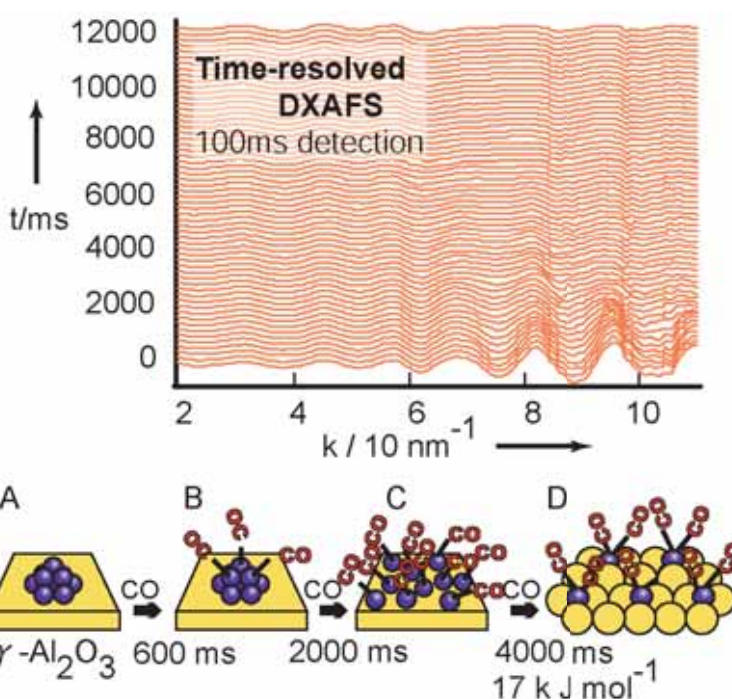


東京大学 理学系研究科・理学部ニュース

35巻4号 2003年11月25日発行

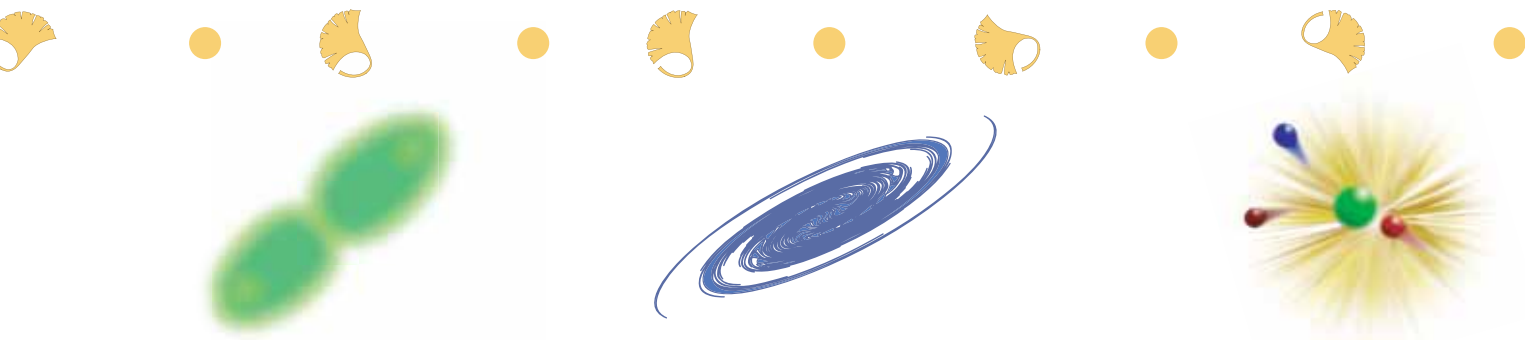
<http://www.s.u-tokyo.ac.jp/>

理学系研究科・理学部ホームページ
<http://www.s.u-tokyo.ac.jp>
と連携しています。



Al₂O₃ 表面上のロジウムクラスター (Rh₉) が、CO 分子の吸着によりバラバラになって表面を拡散して、最後にモノマーになる構造ダイナミクスを、100 ミリ秒の時間分解 DXAFS 法により追跡に成功した。

(関連記事 → 本誌 P.4)





「世界一背の高い花」 *Amorphophallus gigas* 植物園で開花



▲ *Amorphophallus gigas*
写真の右側は若い株の葉。

サトイモ科にはポトス属などのように細長い茎を持ち、主に樹上に着生するものと、塊状に肥大した地下茎（イモ）を持ち、地中に生えるものがある。コンニャク属や日本に多くの種類があるテンナンショウ属は後者の典型的なものである。食用のコンニャクを含むコンニャク属 *Amorphophallus* にはイモが 10kg を超えるものがいくつもあるが、なかでも巨大なのは 1991 年に植物園で開花した「世界一大きな花」ショクダイオオコンニャク *A. titanum* と今回開花した「世界一背の高い花」*A. gigas* であり、それらのイモはときに 70kg にも達するという。どちらもスマトラ島だけに分布する希少植物である。今回開花した *A. gigas* の花（花序）の高さは花茎も含め約 3m であったが、そのイモは 20kg 程度と推定されるので、本種としてはまだ小さい方かもしれない。この *A. gigas* の種子はショクダイオオコンニャクの愛好家であった合衆国の J. Simon 氏によって 1993 年に採集され、ショクダイオオコンニャクの種子とともに世界の主要な植物園に送られたもので、彼は奇しくもその直後に亡くなっている。植物園ではその種子から育ったショクダイオオコンニャクも順調に育っており、最近、葉が枯れて休眠にはいったイモを掘り上げて測定したところ 28kg もあった。この株がもし開花するとすれば数ヶ月のうちには植物園で花が見られることになるのだが、1 年のうちにこれら両種を続けて開花させるという快挙は世界にまだ例のないことだろう。

——— 植物園園長・教授 邑田 仁

